平成●年●月●日

高知県知事　尾﨑正直　様

はりまや町一宮線（はりまや工区）まちづくり協議会
会 長　那 須 清 吾

はりまや町一宮線はりまや工区の整備のあり方に関する提言（会長案）

はりまや町一宮線はりまや工区（以下「はりまや工区」という。）は、新たな高知のまちづくりをめざし、ＪＲ土讃線連続立体交差事業や高知駅周辺土地区画整理事業と一体となった街路事業であり、４車線の南北幹線道路として整備が進められてきました。

これらの３つの事業が概成するなかで、はりまや工区の一部の区間については、新堀川の水辺空間が大切であるという声が高まり、平成 23 年度から工事が中断されています。

このため、昨年６月から、はりまや工区の果たすべき役割、新堀川の水辺環境のあり方、水辺や歴史・文化を活かしたまちづくりについて、２回のパブリックコメントによる県民の皆様からの意見を踏まえ、これまでに●回にわたり検討を重ねてきました。

この工事を中断している区間がこのまま放置されると、新堀川周辺の渋滞の発生や通学児童・高齢者等の安全が損なわれている状況が改善されず、都市内交通の円滑化やまちづくりにも影響を及ぼすことになります。

一方で、高知市の中心部に希少動植物が生息・生育する自然環境や数多く保存されている史跡など、市民にとって貴重な財産が、道路の整備によって失われることは極力避けなければなりません。

また、地域住民の方々からは、この貴重な自然環境や史跡等を観光資源として活かしたまちづくりに大きな期待が寄せられています。

これらの課題に対して、高知県から示された「新たな道路計画案」は、パブリックコメントや協議会の意見、議論を踏まえ、工事を再開するのか事業を中止するのかの２つの選択肢だけではなく、これらの意見や要望を取り入れた新たな第３の計画案となっており、①交通の状況、②希少動植物、③歴史・文化、④まちづくり　の４つのテーマで議論を深めてきました。

この４つのテーマは全て重要ですが、立場によって思い入れや価値観が異なるため、全てのニーズを１００％満たすことはできません。1つのテーマを追求することで、他の３つのテーマに不満を大きく残すことは適切ではありません。

このため、それぞれのテーマの重要性を最大限に尊重し、全体として調和のとれた望ましい整備のあり方として、下記のとおり提言します。

記

一　安全で円滑な交通の確保について

現状においても将来の人口減少等を考慮した推計交通量においても４車線が必要な区間となっており、地域や周辺の道路環境を改善するため、道路整備を行い交通の円滑化を図ること。

また、児童や高齢者など、歩行者と自転車が安心して安全に通行できる自転車歩行者道を確保すること。

一　希少動植物が生息・生育する環境の保全について

新堀川を覆っている駐車場を取り払い、道路幅の縮小や横堀公園の一部を切り込むなどの工夫により、水面を大きく取り、新たに干潟を創出するなど、シオマネキやコアマモの生息・生育環境を再生すること。

また、整備後は、水面や干潟が希少動植物の保全のために機能しているのかを確認するため、モニタリングを実施し、必要に応じた改善を行うこと。なお、この取り組みには、はりまや橋小学校の児童や地域住民の参画を検討すること。

一　歴史や文化の保存と再生について

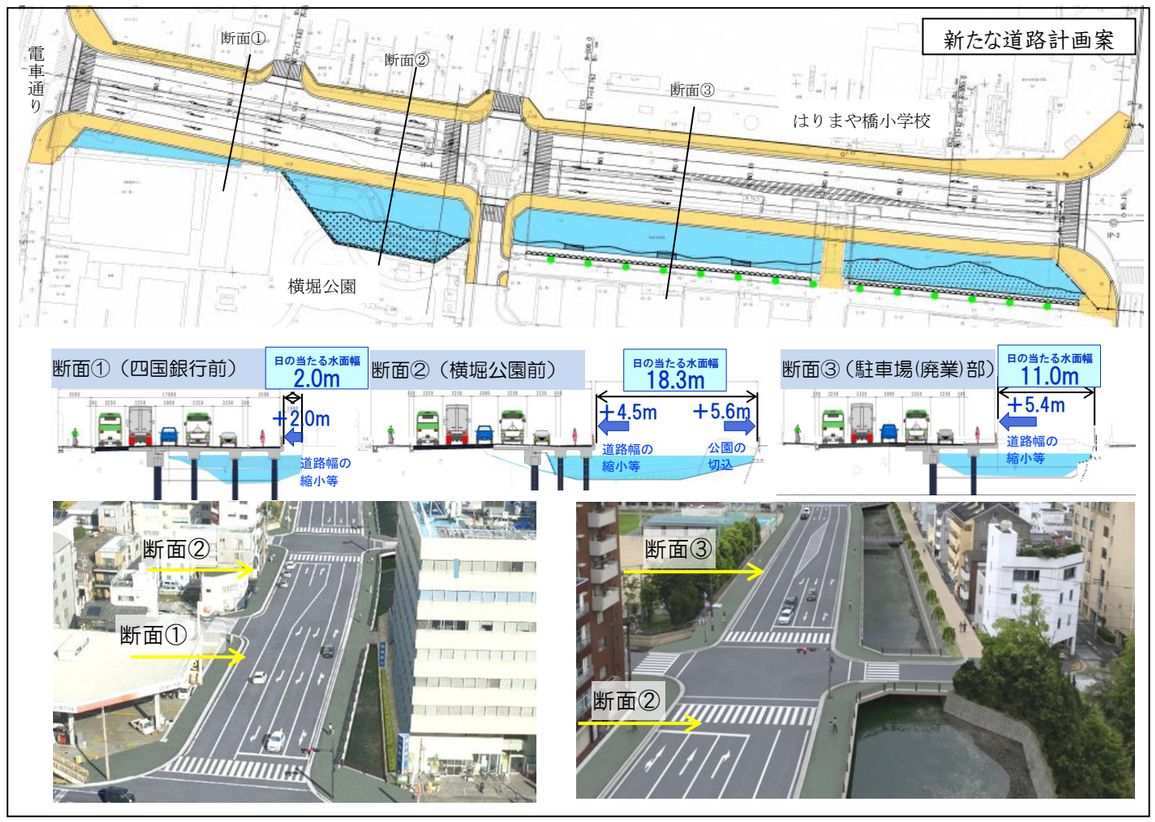
江戸時代の掘割の風景を保全するため、川の西側の石垣はできる限り現位置で保存し、駐車場区間の東側のコンクリート擁壁や横堀公園の石垣は、江戸時代の積み方等によって、復元・再生すること。

また、新市橋の架け替えは江戸時代の橋を参考に検討するとともに、東側の川沿いの道は、歴史的な情緒溢れる風景となるよう舗装や植栽等に配慮した整備を行うこと。

一　まちづくりについて

この様にして保全、再生した自然環境や史跡等を活かした風情と活気のあるまちづくりを進めるため、高知市と連携し、まち歩きマップへの新堀川の組み込みや歴史案内板の設置などに取り組むこと。

なお、整備済区間の幅広歩道部については、植樹による憩いの場や歴史案内板の設置により、人々のたまりの場を創出すること。

このように、希少動植物が生息・生育する自然環境や新堀川界隈に残る史跡等を守り、再生するとともに、これらを活かしたまちづくりを実現し、住民にとって安全で安心できる地域や道路づくりを進めることが重要であり、これを最大限に実現できる最善の案として、「新たな道路計画案」が相応しいと考えます。

今後は、住民との協働により、本案を基礎としたまちづくりが、高知県と高知市の連携のもと実現されることを望みます。